

第 26 回国際植物生殖学会（26th ICSPR）への参加報告

理学研究科 生命理学専攻 生殖分子情報学グループ

D3 長江 拓也

◆ 出張先

チェコ・プラハ

◆ 出張期間

2022 年 6 月 20 日～2022 年 6 月 24 日

◆ 出張目的

26th ICSPR に参加して、ポスター発表を行うため。ポスドク先・留学先を見つけるため。

◆ 概要

ICSPR は植物生殖生殖分野の最大の学会であり、隔年で開催されている。約 300 名を超える研究者が参加し、5 日間密に交流することができた。私は本学会に参加し、

「Two-photon imaging of species recognition in pollen tube attraction of *Arabidopsis* species」というタイトルでポスター発表を行った。

◆ 所感

“遂に参加することができる…！”というのが参加登録時の私の素直な感想だ。というのも、26th ICSPR は当初 2020 年に開催予定であったが、2 年の延期を経てようやく開催に至ったからである。長い自粛期間を経た久々の対面形式の学会はとても懐かしく感じたと同時に、多くの知見と気付きを私に与えてくれた。ポスター発表では、感染対策を講じながら 10 名以上の研究者としっかりと議論を交わすことができた。英語でのプレゼンテーションであったが意思疎通はできたと感じており、今後海外で研究を行うための自信が付いた。また、自由時間には会場付近やプラハ市内を散策し、現地の文化や植物に触れることができた。

実は重なる学会延期によって、研究室では出張費の見通しが立たなかったのだが、GTR プログラムのおかげで念願かなって国際学会に参加することができた。支援をいただいた本プログラムの学生支援室の方々と先生方に厚く感謝申し上げます。

学会会場と近辺に咲いていたアブラナ科植物

